社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会 広報誌
笑顔あふれる支え合いのまち なは
この広報誌は、共同募金の配分並びに皆様からの社協会員会費により作成されています。
No.174　令和４（2022）年

社協だより naha 6月号

那覇市社会福祉協議会創立70年

市民の笑顔あふれる支え合いのまちなは
～頼られる社協を目指して～

那覇市社会福祉協議会
会長 新本博司

2022 年 6 月 11 日をもって本法人は創立 70 周年を迎えます。これも設立から現在まで永年に渡り、多くの市民・関係者皆様の、那覇市社協に対するご理解とご協力の賜物であり厚く御礼申し上げます。

社協は、戦後の生活課題の救済を目的に誕生しました。そして現在は、新型コロナの影響に現れている生活困窮者支援が望まれています。

社協だより6月号には、直近12年の活動をまとめています。那覇市と社協が一体となって策定した「地域福祉計画」に基づき CSW を配置し、行政・自治会・民生委員児童委員と連携し、地域見守り隊の結成や校区まちづくり協議会の支援等、多様なコミュニティづくりに取り組んできました。また、子どもの貧困問題を契機に立ち上げた『子どもと地域をつなぐサポートセンター糸』の活動も居場所づくり支援を通して取り組んだ新たなコミュニティづくりの一環と言えます。そしてこの2年はコロナ禍による失業、休業の影響で特例貸付の申請が殺到し、朝の始業ベルの開始と共に電話が鳴りやまぬ事態に驚きを隠せませんでした。そんな最中、多くの個人・企業団体の皆様より多数寄贈品やご寄付、温かい支援のお言葉をお寄せいただきました。皆様からのご厚意が、本会事業の活動推進には重要不可欠であると再認識し、重ねて心より感謝申し上げます。

今後とも役職員一同使命感を持ち、これまで以上に皆様と協働・連携を図り、新たな地域共生社会の実現に向けて取り組みを推進して参ります。

Facebook・Twitter
やってます！
チェックしてみてね！

那覇市社会福祉協議会創立 70 年　直近12年のあゆみ

社協発展の経緯

◎初の市の事業受託　1975 年(昭和 50 年)9 月 5 日～
末吉老人福祉センター～指定管理事業
◎在宅福祉サービスの誕生と成長　1976 年(昭和 51 年)6 月 10 日～
訪問入浴サービス～友愛訪問・ふれあいデイサービス・ふれあいいきいきサロン
◎地区社協の実現　1983 年(昭和 58 年)5 月　城西地区社協以降校区単位の福祉の組織化～
地域福祉推進会等発展解消、那覇市において小学校区まちづくり協議会の活動推進
◎福祉教育とボランティア 1986 年(昭和 61 年)5 月～　学校ボランティア指導者との連携を図ることを目的に
那覇学校ボランティア活動連絡会(ボランティア実践表彰)
◎うまんちゅがボランティア　1989 年(平成元年)5 月～
市民 G なはボランティア連絡会主催し、国際通りを一斉に市民が車いすアイマスク体験で福祉の環境整備につながった
◎障がい者の社会参加促進　1990 年(平成 2 年)10 月 15 日～
うまんちゅ号の運行を契機に、障がい者団体組織化支援(このまちをこよなく愛する会ミッキーズ・ミニーズの会)、ガイドヘルプ、やまびこ大学校(重度障がい者の学びの場をオリブ山病院の協力で開校)・障がい者生活支援センターゆいゆい受託
◎介護事業　2000 年(平成 12 年)4 月～
訪問介護、通所介護、居宅介護支援、障害福祉サービス事業への参入
◎市の一体計画と地域見守りの組織化　2014 年(平成 26 年)4 月～
CSW の配置(安心生活創造推進事業)
◎市の横断的な子どもの貧困対策庁内会議　2016 年(平成 28 年)4 月～
子どもの居場所を支援する「糸」社協が運営

社協誕生の経緯

戦後、生活困窮者の救済活動支援者の組織化が急がれていた。1952 年 6 月 11 日(県社協に継いで、県初の市町村社協誕生)

なは社協は、未来へ深化し続けます。

2010 年(平成 22 年)度
緊急医療情報キット開始

①高齢者等の安否確認を含めた見守り活動に緊急医療情報キット開始

②第 3 次社協強化発展計画を策定。2013 年までの 4 年計画で、地域コーディネーター 4 名を配置(8 代会長　銘苅春雄)

③「赤ちゃんが先生」(保健教育)那覇西高生との交流がスタート

2011年(平成 23年)度
ゴミ出しアシスト収集事業化へ

①本会の活動が市の事業化に結びついた。

②同年 7 月、9 代会長に仲里政幸が就任

2012年(平成 24年)度
災害ボランティアセンターマニュアル作成

①災害に備えて、災害救助法に適用した災害ボランティアセンターの設置運営マニュアルを作成し、資機材整備に着手した。

②那覇市生活保護金銭管理事業を受託

③60 周年冠事業の実施

2013年(平成 25年)度
成年後見制度の事業化

①従来の権利擁護事業の実績から法人成年後見事業へと拡充

②那覇市地域ふれあいデイサービスは 15 周年を迎え、新規 5 か所含め 112 箇所となった。

2014年(平成 26年)度
CSWを地域福祉計画に位置づけ

第 3 次那覇市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の一体計画が実現。計画の実施に伴い、これまでモデル事業として取り組んできた地区コーディネーター業務を、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）と位置づけ、国におけるセーフティネット事業として安心生活創造推進事業を受託した。本計画の福祉圏域 16 民児協区に 8 名の CSW を配置した。

地域見守り隊
きずな
認証第 1 号

2015年(平成 27年)度
94歳の相談員 引退

①福祉相談室の現役相談員として 94 歳まで活動された仲里文江先生（現在 100 歳！）。「福祉の谷間にいる人のことを忘れてはいけない」をモットーに続けてこられました。

94 歳まで福祉相談室相談員を勤めた
仲里文江氏

②地域福祉懇談会の成果により 16 民児協圏域の地区概況を CSW が作成

2016年(平成 28年)度
子どもと地域をつなぐサポートセンター「糸」が始動

①沖縄県は子どもの貧困対策が緊急課題で、那覇市でも重点施策の一つである。那覇市より子どもの支援団体等へのサポート事業を 10 月より受託した。

②那覇市より、生活支援介護予防体制整備事業を受託し、介護予防サービスに関する体制の充実強化を図った。

2017年(平成 29年)度
見守り活動が命を紡ぐ

①福祉協力員のタイムス販売店から「数日間も新聞がたまっている」と社協へ連絡がよせられた。その後包括、警察と連携し一命をとりとめた。数時間遅ければ命の危険もあり、改めて福祉連携の重要性を確認し合うこととなった。

②那覇社協創立 65（法人設立50）周年を記念し、記念誌を発行。11 月 17 日に記念祝賀会を開催した。(10 代会長 新本博司)

③クリスマスケーキ贈呈事業スタート。
経済的に困窮している世帯の子ども達に“楽しいクリスマスを過ごしてもらいたい”という想いから、沖縄県洋菓子協会と市内洋菓子店舗のご協力をいただき、歳末助け合い運動の一環として、民生委員との協働でクリスマスケーキを届ける事業が始まる。

白バラ洋菓子店 本店

2018年(平成30年)度
企業福祉協力員が注目

①必要性を重視し企業向けの福祉協力員養成講座を実施。

丸徳ガス社員福祉協力員養成講座

②法的トラブルの予防やリスク対策のため顧問弁護士の契約をゆいまーる法律事務所弁護士の寺田明弘氏と交わした。

③第 3 次地域福祉計画及び地域福祉活動計画（一体計画）の最終年度として中圏域を CSW の配置エリアとした。

四者会議にて地域の課題共有

2019年(令和元年)度
経営・人材・労務のコンサル契約

①人材育成を目的に幸喜穂乃氏（Happy Joy代表)と委託契約。

②社会保険労務士クローバーと委託契約。働き方改革関連法施行により就業規則の整備を行う。

③ＥＹ税理士法人と委託契約し本会の経営診断を依頼。職員と経営の現状課題を共有した。

④那覇市第 4 次地域福祉計画及び第 2 次地域福祉活動計画(令和 5 年度まで)が開始。

⑤那覇社協第4次強化発展計画を策定した。(令和 2 年度開始)

2020年(令和2年)度
ちゅいしいじい事業開始
(小規模法人ネットワーク化事業)

①県社協より同事業を受託。様々な地域の福祉課題に、法人格をもった福祉サービス提供施設が連携強化して対応する契機と捉え、小規模法人のネットワーク構築を目指す同事業が始まる。事業の指針として、那覇社協と各法人が連携協働し、地域の身近な相談・支援体制の整備や包括的な支援の実施を目指す。

②こども食堂等支援事業を実施。子どもと地域をつなぐサポートセンター「糸」の活動を基盤に、大手の吉野家やケンタッキーなど、各企業の本業を活かした食糧支援のコーディネートを行い、全国的にも注目されている。

2021年(令和3年)度
那覇市制 100 周年記念
那覇市歌体操を創作

①地域ふれあいデイサービスでは、那覇市制 100 周年(社協創立 70 周年)の記念に、那覇市歌に体操の振り付けを全員で創作。

②コープ・イオン・リウボウ・福祉施設・自治会が連携し、高齢者等の買い物支援の取組みをモデル事業として実施。

2020年～現在
コロナ禍による支援が急増
ボランティアが活躍

①経済に大きな影響を与え、失業・休業・時間短縮により生活困窮に陥る市民が急増した。コロナ特例貸付を令和2年3月に開始し、那覇市だけでも約 159 億円（R4.2 月末）の貸付があった。これは市民が如何に日々の生活を凌いでいるか、そして生活困窮の問題は誰にでも起こりうる状況であることが分かる。

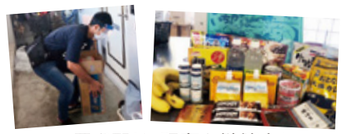
②CSW による民生委員、自治会長、見守り隊会員への聞き取り、地域の実態把握を行ったところ、電話による安否確認や手作りマスクの配布など工夫を凝らしてコロナ禍における新たな訪問を模索していた。また、CSW はこれら関係者と地道に生活困窮世帯の環境整備、生活支援に取り組み市民サービスの底辺を支えた。

③学校給食が休校のためなくなり、昼食が食べられない子どもたちにお弁当を提供しようと、ボランティアによるお弁当づくりが実施。また多くの施設・企業団体が毎日のように食糧を提供し一つの運動となった。これも子どもと地域をつなぐサポートセンター「糸」やボランティアセンターの目覚ましい活躍の成果である。

④ボランティア活動や地域福祉活動で相互協力するためのパートナーシップ協定を締結。令和 3 年 5 月 7 日、全国で初めて陸上自衛隊と協定を結んだことを皮切りに、那覇商工会議所青年部、那覇青年会議所、特定非営利活動法人 JADE- 緊急開発支援機構、沖縄大学とも協定を交わし、今後の活動発展に期待している。

⑤生活困窮者支援のためフードドライブに取り組み、令和 3 年度は 89 件 10,170 点の食料品を 319 世帯へ提供した。

⑥コロナ第 5 波の 9 月以降より自宅療養者に対して食料支援を行う事業を立ち上げた。提供品には、多くの企業団体、個人から頂いたご寄付や寄贈品、一部共同募金や市補助金も活用している。玄関先に「置き配」という形で、これまでに 558 世帯 1,593 人（R4/4/15 現在)に食料品を届けている。



置き配は、現在も継続中！

2021 年(令和 3 年)度、2022 年(令和 4 年）度に新人計 6 人が入社した。沖縄の社会的孤立防止運動に立ち向かうには、情報社会の波にのれるような、SNS などを活用した広報を得意とし、仕事に前向きで世話好きな若者だ。新しい風を取り込む勇者であることを期待したい。地域共生社会の実現を目指す未来へ彼らの力を託したい。

那覇市社会福祉協議会創立70年 社協未来設計図（役割の木）

地域共生社会実現のため市民や利用者の安心安全な街を、皆さまと共に築く

あしびなー利用者
上原 金光 様

「あしびなーに通うようになって、とても若くなったように感じる、あしびなーの皆のおかげさー。」

わかば利用者
喜納 盛安 様

随時介助が必要な僕には、将来高齢化が進行し、ヘルパーが少なくなるということに不安を覚えます。どうか、わかばにも僕たちを支えてくれる若い世代の育成もお願いします。

桃原町自治会長
宮良 吉雄 様

「ふれデイや、サロン、見守り隊などの様々な地域コミュニティの活性化にお世話になっています。これからも共に地域共生社会を目指して頑張りましょう。よろしくお願いいたします。」

市民ボランティア
万田 寿也 様

「地域福祉の充実や向上・ボランティア活動の振興等、住み良い街づくりの為に社協の必要性を感じました。」

小禄第１民児協
民生委員児童委員
上原 たか子 様

『肝苦しさで走りぬいた社協の 70 年に心より感謝。福祉社会の対応として発展を祈ります』

職員行動原則

- 私たちは地域住民に寄り添い柔軟な姿勢で対応します
- 私たちは使命感を持って新たなことにチャレンジします
- 私たちは仲間の個性を認め合いチームワークで対応します
- 私たちは福祉サービスの質の向上と自己研鑽に努めます
- 私たちは感謝と笑顔を大切にします

市民の皆さまから社協に期待されていること

要望Ⅰ

四者会議～社協の職員は日々頑張っているが、もっと地域に入って困り事を抱える市民の声に寄り添ってほしい。

決意1

積極的に地域に出向いて市民の困りごとを把握し、関係機関と連携します。

決意2

一人の住民の声に耳を傾けて制度からではなくニーズから取り組みをスタート出来るよう邁進します。

要望Ⅱ

ボランティア市民活動センター運営委員会～社協の事業は多くて多忙だが、YouTube 等の SNS 情報ツールを大いに活用してほしい。

ボランティア市民活動センター運営委員
赤嶺 剛 様

決意3

若い世代の情報ツールと従来の広報誌等の充実を図り、ボランティア活動を希望する地域住民を受け入れを幅広く推進します。

決意4

社協は、地域福祉ニーズの先遣隊として、介護事業も継続実施していきます。

職員の決意表明　主事 宮城咲菜

様々な地域課題がある中で、地域の方が安心して暮らしていくために何が出来るのか考え社協のことをもっと知ってもらえるよう活動できる職員になりたいと思います。

そして笑顔を忘れず地域の皆様に信頼できる社協 100 周年を目指したいです！

（令和４年４月１日　入職）

職員の決意表明　主事 高澤祐樹

新型コロナの影響であらゆることが制限される中で葛藤した 1 年となりました。しかし、このような厳しい時代に那覇社協の職員として地域住民のために働けることができ大変うれしく思います。

70 周年を迎えて気持ちを新たにし、地域の皆様に愛されるような社協職員を目指し精進して参ります。

（令和３年４月１日　入職）

社協の役割➡木

Ⅰ. 地域福祉の基盤づくり
Ⅱ. 在宅福祉サービスの充実
Ⅲ. ボランティアセンターの運営
Ⅳ. 福祉の総合相談
→8 つの福祉サービスに分類

職員一人ひとりが心に留めておくこと

どの事業もみなが誇りを持ち市民の幸せを願い、一人ひとりの困りごとを受け止めて傾聴し、必要な機関につないだり、解決の手立てを本人と一緒に考え導くソーシャルワーカであることが社協に改めて求められており、今後も真摯に務めて参ります。

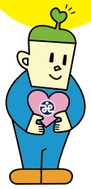
社協の特性（強味）

- 市町村に 1 か所設置義務（社会福祉法 109 条）
- 支援の対象者は、全世代
- 浄財を集めて、必要な世帯へ、団体へ配分できる。
- 地域の皆さんや様々な関係機関と連携し問題解決を行えるよう地域福祉を推進していきます。

大事にしてきたこと

- うまんちゅ（万人）がボランティア
- 一人の不幸も見逃さない運動
- 福祉で街づくり運動
- おせっかい屋さん

社協会員募集中!!



ハイサイ！！グスーヨー ワッター社協やいびー～ん

会員のみなさまに支えられて、たくさんの事業・活動に取り組んでいます。

福祉サービスその１ 一人ひとりの自立生活を支えます

羽根マーク は、赤い羽根共同募金を活用

●地域ふれあいデイサービス事業

地域の公民館・集会所・学校などを利用して、地域ボランティアと本会から派遣されているスタッフ（看護師・レク支援員）が一緒になって、おおむね65歳以上の方々の「生きがいづくり、健康づくり」を支援する事業です。

●歳末たすけあい見舞い激励金事業

生活に困っている世帯を対象に、少しでも明るいお正月を迎えて頂くため、歳末たすけあい募金から世帯状況に応じて見舞金を支給しています。

●歳末おそうじ隊事業

明るいお正月を迎えられるよう、年末に独居高齢者や障がい者宅を、高校生を中心にボランティアでお掃除を行います。財源は、歳末たすけあい募金を活用しています。

●地域見守り交流事業

那覇市民生委員児童委員協議会共催のもと、普段ひきこもりがちな市民を対象に孤独感の解消や社会参加、地域との繋がりづくりを目的に、開催しています。財源は、歳末たすけあい募金を活用しています。

●育児支援家庭訪問事業

出産直後や子育てに不安をかかえている母親などの育児支援を目的に、育児支援員が一定期間育児家事をサポートします。

●紙オムツプレゼント事業（ボランティア BOX）

市民からの善意として使用済みの切手やテレカ等をボランティア BOX 事業として収集し、更にそれを篤志家が換金することで、障がい者世帯への紙オムツをプレゼントとしています。不足している財源は、歳末たすけあい募金を活用しています。

●食料支援（フードドライブ運動）の推進

生活にお困りの方を緊急時に支援する一環として、食料寄付を募り、福祉関係団体を通して、必要としている方へお届けしています。

●那覇市ファミリーサポートセンター事業

「子育てのお手伝いをしたい。」「援助してほしい。」の相互援助活動を行う会員組織です。仕事が休めない、子どもの送迎が出来ない、買い物や美容室などのリフレッシュが必要などの場合にご利用ください。アドバイザーが詳しく説明します。

●子どもと地域をつなぐサポートセンター糸

子ども食堂や学習支援等の活動を実施しているボランティア団体や自治会、NPO などの支援団体等をサポートを行い、より効果的な子どもの貧困問題対策と「地域づくり」を目指しています。

福祉サービスその２ あなたが望む福祉サービスを支援

日常生活自立支援事業 TEL 098-857-4525 生活保護世帯金銭管理事業 TEL 098-987-1225

認知症や障がいなどで、金銭管理などに不安のある方の日常的なお金の出し入れのお手伝い等と行います。

法人後見事業 TEL 098-857-7766

法人（那覇市社会福祉協議会）が判断能力が不十分な方の成年後見人となりサポートしていきます。

障がい者生活支援センターゆいゆい TEL 098-891-8454 FAX 098-857-6052

障がい者等の日常的な相談に応じ、必要な制度・サービスの利用支援を行います。

那覇市リフト付バス運行事業（うまんちゅ号） TEL 098-859-8383

障がいを持った方の外出支援を行います。

福祉サービスその３ いつでも・どんな相談も承ります

地域には、厚生労働大臣から委嘱されたボランティアとして民生委員児童委員がいます。社協では民生委員児童委員・自治会・福祉協力員と連携して市民のみなさまの困ったことに応えていきます。

ふれあい福祉相談室（貸付に関する事等） TEL 098-857-7780

生活上の心配ごと、悩みごと、どのようなことでも気軽に相談できる一般相談・司法書士法律相談・弁護士相談を開設しています。内容については秘密を厳守しますので、安心してご相談ください。

① 一般相談	毎週月曜日～金曜日	10：00 ～ 16：00
② 司法書士法律相談	毎月第２金曜日	14：00 ～ 16：00（予約制）
③ 弁護士相談	期数月第４金曜日	14：00 ～ 16：00（予約制）

福祉サービスその４ 福祉資金をご活用ください

生活福祉資金貸付事業

低所得・高齢・障がい世帯を対象に資金の貸付を行います。（福祉資金、教育支援資金、総合支援資金、緊急小口資金等）なお、沖縄県社会福祉協議会で審査があります。

福祉サービスその５ 市民活動・福祉教育を応援します

自治会・福祉団体・グループへの活動費助成と運営支援

小・中・高校の福祉教育活動助成と運営支援

学校等を対象に、活動費の一部助成とボランティア表彰を行っています。

福祉サービスその６ 地域を支える人づくり

那覇市ボランティア市民活動センターの運営

ボランティア活動を広く紹介し、ボランティア活動に参加したい方や援助を受けたい方への地域活動のコーディネート役を担いつつ、リーダーの養成を行います。

ボランティア講座（人材育成等）

様々なボランティア活動を推進するための講座や地域を担う人材を育成します。

福祉サービスその７ 福祉の拠点施設をご利用ください

- 那覇市総合福祉センター TEL 098-859-0099
- 老人福祉センター 小禄 TEL 098-857-7365
  識名 TEL 098-854-7877
- 老人憩の家 金城 TEL 098-859-0099
- 児童館
  小禄 TEL 098-857-5377
  識名 TEL 098-854-9656
  金城 TEL 098-859-0099

福祉サービスその８ 介護のことならおまかせ！

居宅介護支援事業 TEL 098-891-8236

デイサービスあしびな～・ヘルパーステーションわかば TEL 098-859-8388

介護サービスを提供しています。お気軽にご相談を！！

社協の運営は市・県の補助金・委託金はもとより、みなさまからいただいた赤い羽根共同募金・社協会費・寄付金が充てられています。

那覇市社会福祉協議会の組織・財源

那覇市社会福祉協議会は、市民を始め、個人・団体等から構成される会員組織を基盤として、自治会・民生委員・児童委員、社会福祉事業関係者、企業関係者などの代表者から選出される理事、監事および評議員の決定により運営されています。市内の関係団体等の参加・協力のもと、地域の皆さんが、住み慣れた地域で安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざして、さまざまな活動を行っています。

理事会	11 名
監　事	3 名
顧　問	2 名
評議員会	23 名

役　員	
会　長	1 名
副会長	3 名
常務理事	1 名

那覇市共同募金委員会

事務局／
職員 185 名／企画総務課・地域福祉課・在宅福祉課・福祉施設課

令和 4 年 4 月 1 日 現在

社協会費と寄附

社協会員は、本会の活動趣旨にご賛同いただいた“まちづくりのサポーター”です。
その財源で各種地域福祉事業を推進しています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

正会員

住民組織、公私の社会福祉事業関係者で構成します。

① 戸別会員 ―― 1 世帯　100 円 ―― 自治会
② 団体会員 ―― 年 額 3,000 円 ―― 福祉団体
（当事者・ボランティア・福祉関係機関）
③ 個人会員 ―― 年 額 1,000 円 ―― 社協役員
（社協理事・監事・評議員、民生委員児童委員）

賛助会員

社会福祉の増進に理解と熱意があり、
本会に賛同し事業に要する経費を賛助する方。

① 個人会員 ― 1 口　1,000 円 ― 賛同する市民
② 団体会員 ― 1 口　5,000 円 ― 医療機関・団体
③ 企業会員 ― 1 口 10,000 円 ― 企業法人
④ 協力会員 ―― 任意の額 ―― その他趣旨に賛同する者

※社協会員のお申込みは、那覇市社協事務局の窓口または銀行振込等にて、年間を通じて受付しております。※社協会費は年額、年度更新です。

寄 附 ～ 一般寄附・香典返し ～

金銭のご寄附は、税法上（所得税・住民税）控除を受けることができます。
※寄附のお申込みは、那覇市社協へお問い合わせください。窓口申請または銀行振込等にて、年間を通じて受付しております。

社協創立 70 周年の社協だより特集号編集後記

記念誌の作成は、70 年の歴史を紐解いて、これから取りくむ中で、本号特集の指示が出された。とっさに閃いたのは、第 4 次社協の発展計画を策定するときに思案した社協会員と創る未来設計図だ。
①社協誕生の経緯②社協はこれまで何を大事にしてきたか③那覇社協の使命（機能・特性）④社協が発展・進化してきた経緯⑤これからの時代に何が起きるのか！⑥何のために変革するのか？⑦新たな地域福祉のステージへ向けて、市民から期待されていること⑧社協のこれからの決意。この 8 つの機能役割をまとめた設計図を、木のイメージで社協そのものに例えてみた。樹齢70年の杉の木は家の土台となること。福祉は人につきます。改めて社協の財源は皆様から寄せられる会費や、寄付、赤い羽根共同募金、介護事業収益等で賄うことが求められています。中でも社協会員の会費は、福祉人材が安心して働ける環境整備ための貴重な財源となっています。

結びに、この特集号をお読みになって、社協活動＝地域の困りごとを解決する法人ということをご理解いただければ幸いです。市民の皆さまのご理解ご協力を賜り、引き続き社協活動を応援する社協会員となって頂くことを切望します。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（役職員一同）

寄附者ご芳名

令和 4 年 4 月 1 日～
令和 4 年 4 月 30 日までの
寄附金状況（敬称省略）

67,100 円

一般寄付

・AA なはグループ
・匿名

おきぎんスマート

・ちばりよーな～ふぁ
10 件 /6,100 円
・な～ふぁゆいまーる
15 件 /18,100 円

令和 4 年 4 月 1 日～令和 4 年 4 月 30 日
寄付金総額
67,100 円

※那覇市社会福祉協議会が実施する事業及び福祉サービスにおいては、個人情報保護規定を定め、個人情報の種類・利用の目的・提供方法について、適法かつ適性な方法で対応いたします。

社協だより naha
No.174 令和 4（2022）年 6 月号
社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会
発行／〒901-0155 那覇市金城 3-5-4 TEL.098-857-7766 FAX.098-857-6052
〈E-mail〉info@nahasyakyo.org 〈URL〉http://www.nahasyakyo.org